むぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

October 2026

こじか園／第二こじか園／はぐるま共同作業所／はぐるま共同作業所　和の杜／はぐるま共同作業所　ラ・テール／麦の郷印刷／ソーシャルファームピネル／むぎピース／ソーシャルファームもぎたて／meglück（メグリュック）／六星舎／叶夢向／麦の郷　和歌山生活支援センター／麦の郷　紀の川生活支援センター／障害者就業・生活支援センター つれもて／くろしお作業所／麦の郷訪問看護ステーション／麦の郷居住福祉事業所／ハートフルハウス　創／事務所／ゆめ・やりたいこと実現センター／ちいき暮らしサポートセンターわかやま／麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美　発　行／麦の郷情報管理委員会　〒640-8301 和歌山市岩橋643　TEL(073)474-2466　FAX(073)474-4637　http://www.muginosato.jp



こじか園 夏まつり
8月27日（木）



第二こじか園　年長児夕涼み会
7月31日（金）

meglückの陶芸事業スタート









風鈴をつくっています。

私たちのめざすもの ～麦の郷４つの理念～

1）.麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展をめざします。
2）.私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践をめざします。
3）.私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
4）.麦の郷は、全ての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

「むぎすぽ！」で交流しました！



現在、麦の郷の 50 周年記念のイベントがいくつか行われています。今回は７月 10 日（金）に紀の川市民体育館で行われた「むぎすぽ！」についてお話しします。企画を考える中で、仲間たちのやりたいことをアンケートで聞かせてもらうことにしました。アンケートを集約したところ、「スポーツがしたい」「他の事業所の仲間と交流したい」といった意見がたくさんあったため「スポーツで交流しよう！」と、「むぎすぽ！」というタイトルを掲げ、開催しました。

普段は、事業所同士の交流をすることがほとんどなく、初の試みです。この日のプログラムは、“ドッジボール大会”“音楽を楽しもう（和歌山県主催の出張まなび講座の企画の１つ）”“〇× クイズ”の３つでした。

ドッジボール大会は、１チームを２～３事業所で組み、チーム対抗戦で行いました。試合が始まる前に、簡単な自己紹介をし、試合開始。チーム内で相手を気遣いフォローしている姿や、身体を動かし楽しんでいる姿など、いろいろなシーンから見ることができました。

「音楽を楽しもう」のプログラムでは、みんなの聴きなじみのある歌をキーボードで演奏しながら、音の響かせ方次第で楽しい曲になったり、暗い曲になったりすることなどをお話しいただきました。実際、その違いを演奏していただき、体感する時間でした。

〇× クイズは、各事業所に「事業所にちなんだ問題」を事前に作ってもらい、事業所のことをいろいろ知ってもらう機会になればと考えました。いつも仕事で作っている製品にちなんだ問題や、事業所の歴史の問題などがたくさん集まり、チーム対抗戦と個人戦を行いました。

どのプログラムを通じても、仲間同士が交流する場面を見ることができてよかったです。同じ事業所の仲間だけではなく、普段は関わることが少ない他の事業所の仲間たちと交流できたことが、みんなの心の中に思い出の１つとして残ってくれるといいなと思いました。また、それぞれの楽しそうな雰囲気や、たくさんの笑顔を見ることができた「むぎすぽ！」だったので、こういった枠を超えた交流は、今後も続けていきたいと思っています。

（くろしお作業所　道幸　美也子）

和歌山大学で開催された社会教育主事講習にて講義をさせていただきました

2026 年 7 月 29 日（水）「障害者の生涯学習・支援の実際」をテーマに、ゆめやりメンバーの三木将矢さんとゆめやりメイトの藤本綾子さんと共に活動のお話をさせていただきました。受講生は「社会教育士」を目指されている近畿地方の行政職員・学校教員・NPO 関係者のみなさんなど、53 名でした。「これまでの経験や気持ちなどをたくさんの人に伝えられてよかった。自信につながった」と、三木さん。「自分の居場所にもなっているたまり場。支援する・されるの関係ではない「ゆめやりメイト」として一緒に過ごし、楽しみ、取り組む。そして、そんな素敵な空間を知っていただくことも私の大切な役割です」と、藤本さん。



受講された方から「現場の声がとても参考になった」など、講義後すぐに伝えてくださる人も!?いつか社会教育士になられた方々とゆめやりメンバーと共に、障害のある人の学びを地域で創り合えたら素晴らしいのではないかと、新たな夢と希望がふくらみました。

（ゆめ・やりたいこと実現センター　尾方　千春）

麦の郷 50 周年記念事業　石川・沖縄視察研修

石川視察研修

社会福祉法人佛子園・石川能登震災復興見学



5月 21 日（木）～ 23 日（土）、石川県に視察研修に行ってきました。職員８名が参加し、時代を超えてかわらず受け継がれてきた風情溢れる兼六園、障害の有無や年齢に関係なく多様な人たちが“ごちゃまぜ”で交流している佛子園のシェア金沢や能登半島地震からの“創造的復興”にむけて就労事業を行っている輪島 KABULET、きょうされん理事大野さんの案内で七尾市周辺の様子や復興の記録、震災を乗り越えてきた就労継続支援 B 型作業所いきいきを見学しました。その中でつながりの大切さを再実感するとともに、学びある研修となりました。

（六星舎　大畑　早織）

沖縄視察研修

沖縄で命の大切さを学びました
～命どぅ宝～



50 周年視察研修の一つである平和学習で 6 月 17 日（水）から 19 日（金）の３日間７名の職員で沖縄に行ってきました。ひめゆり平和祈念資料館では、ひめゆり学徒隊の方が体験した戦争の悲惨さや、戦争が終わってからも自分が生き残ってしまった事に対する苦しみを抱えながら生きてこられた話をお聞きしました。糸数アブチラガマでは、ガマの中でも生と死・優しさと残酷さと向き合いながら生きようとしていた当時の様子をお聞きしました。

今も沖縄は米軍基地による自然破壊・騒音被害・PFAS による汚染など沢山の問題を抱えています。これは沖縄の問題だけではなく日本全体にも起こりうる事なのかなと感じました。平和な時代が続く様に、みなさんも平和について関心を持っていただけたらと思います。

（はぐるま共同作業所 ラ・テール　更家　亜紀）

在職者交流会

在職者交流会は、当事業所に登録のある一般企業等で就労中の方を対象に、勉強会やグループワークを通じて、個々の社会人としての成長を促す体験の場になればと考え企画しています。

今回は７月２日（木）木広町にある和歌山市立ふれ愛センターにて、警察本部交通企画課安全教育係の方を講師に迎えて交通安全講習会を実施しました。

具体的な内容は、2026 年 4 月 1 日（水）より自転車交通違反に青切符が導入されたところで、主な反則行為や反則金・罰則の事例などをホワイトボードにて細かく説明があり、その後 DVD を視聴しました。

講師からの問いに対して、「二段階右折！」と元気良く回答する場面もあり、約 1 時間での交通安全講習会



でしたがみんな最後まで集中して真剣に取り組め、正しい交通ルールの理解を深められる良い機会となりました。

（障害者就業・生活支援センター つれもて　八木　聡）

子ども支援部プロジェクトについて

麦の郷管理者会議の中で、今年度、子ども支援部の運営を重点課題とすることが決まりました。主な内容は、子ども支援部の組織強化と、和歌山市の障害を持つ子どもたちの情勢変化への対応です。４月より、『子ども支援部プロジェクト会議』を始めました。

理事長はじめ、法人事務局、こじか園・第二こじか園の幹部、担当事務が月に一度あつまり、現在通っている子どもたちのために、これから入ってくる子どもたち、保護者の方々のために、今後必要なこと、課題は何なのかなどを議論しています。

背景には、2 年前より療育センターに入園希望する子どもが減少し、今年度は、６つの療育センターで受け入れ可能な 55 名枠に対して、27 名しか希望する子どもがいなかったことがあります。児童発達支援事業所が市内に 80 か所を超え、１歳半健診での保健センターのフォローよりも先に保育所を利用している方が多く、その多くは働き方を変えづらい現状から、保育所に通いながら児童発達支援事業所を利用するケースが多くなったと思われます。障害を持っている子どもの保護者（多くは母親）は、就労していると療育センターでは保育時間が短く、必要性を感じていても勤務時間を短縮するか、辞めなければ療育センターを利用できないということが、この結果につながっていると分析しています。

和歌山市で生まれ、療育を必要とする子どもたちの、本来保障されるべき療育を受ける権利を守るため、様々な角度で対応策を検討中です。来年度からは、両園とも保育時間を延長し、送迎車の利用も含めれば、９時～17時の勤務時間でも療育センターに通える体制をすでに整えました。

子ども支援部の課題ではありますが、こうして麦の郷全体での重点課題として会議を持てることはとても心強いと感じています。今後も、必要とする子どもたちが制限なく療育を受けられるように、情勢への対応と保育、療育内容の充実、職員の資質向上を目指していきたいと考えています。

（こじか園　浦上　武史）

2026 年度　麦の郷新人職員研修

『“知は力なり”共に学びあいましょう！』をテーマに麦の郷新人職員研修を 6 月 18 日（木）、７月 31 日（金）、８月７日（金）の３日間実施し、今年も新たに入職された 18 名の職員が参加しました。

第１講座「麦の郷の歴史と実践」は居住福祉事業所管理者及び生活支援部 部長 武田賢二氏、第２講座「発達と運動」はこじか園 園長の浦上武史氏、第３講座「麦の郷の職員として知ってほしいこと『!!制度!!』何故、それを私たちは知り、学ぶのか」はメグリュック管理者及び法人事務局次長 野中康寛氏から講義がありました。３名の講師の方から、麦の郷の今日までの歩みやケースを交えながら、障害のある人と向き合う中に多くの学びがあることや、発達についての学びや職員集団の成長の大切さ、また歴史的背景や様々な制度を知り、仲間と共にどう豊かに生きていくのかなど幅広い話を聞くことが出来ました。この講座が気付きのきっかけになり、日々の実践に取り入れてもらえればと思いました。同じ麦の郷の職員として、これからのことについて一緒に夢を語れたら素敵だなと思っています。





（教育研修委員　山本　直子）

たなかの杜と田辺市役所での自立支援協議会団体が運営するカフェ見学

6月 19 日（金）に麦の郷地域生活支援部会において４カ所目の自立訓練事業所「たなかの杜」と新しくできた田辺市役所内の福祉団体が運営するカフェを見学にいきました。

たなかの杜では、ふたば福祉会 米川理事長に出迎えていただきました。仲間の多くは支援学校高等部卒業後に利用となっており、行事や旅行など、生活が豊かになるような取り組みをおこなっている様子が見受けられました。印象的だったのは支援学校の教師たちと密に連携をおこない、教師が自立訓練事業の必要性を理解し、毎年のように数名の利用者が入ってくることです。それはたなかの杜を利用した卒業生が成長していく姿を見るなかで、教師が大事な卒業生を託していく信頼があるからだと感じました。

田辺市役所での見学では、米川理事長より自立支援協議会のなかからカフェ事業を希望団体で運営する仕組みを考案していき、窓口となってくれた障害福祉課と



協議を重ねていくなかで、互いに納得のいくものが形となったと話してくれました。今後も継続していくなかで仲間の賃金アップや就労スキルの向上につながることに期待を膨らませていることも伝わってきました。

今回の見学においてふたば福祉会の仲間、スタッフの皆様、ご多忙のなかまことにありがとうございました。

（麦の郷居住福祉事業所　武田　賢二）

＊むぎ・わくわくレポート 29＊



「おはよう！今日はおかき並べます！」私が出勤してくると井原さんが挨拶してくれます。そして先におかきの作業場に行き、仕事を始めてくれるのです。井原さんは 15 年以上おかきの仕事をしてくれている大ベテランです。毎年お盆前にはおかきの大量注文を頂くので、本来週一の味付け作業もこの期間は毎日の味付けになるのですが、暑い作業場で根気強く、暑さでイライラしながらも仕事をやり切ってくれます。朝ラ・テールの前の通りを歩いていると井原さんがおかきを焼いてくれている音が聞こえてきます。私の一番好きな音です。そしておかきの作業場を覗き、「おはよう」と挨拶を交わし「やりますぞ！」でおかきの熱い一日が始まるのです。

（はぐるま共同作業所 ラ・テール　前田　昇馬）

麦フェス11月22日（日）開催



旅行・レク特集

『ふるさとをください』を観ました



8月5日（水）に麦の郷50周年記念の職員研修として、むぎピースと和歌山生活支援センターの合同で、麦の郷をモデルにしたきょうされん30周年記念映画「ふるさとをください」を鑑賞しました。

麦の郷には長い年月を乗りこえてきた、ともに過ごす仲間たちの笑顔、支援者、協力者の方々もいます。

これからも出会いが続き、みんなが歩みやすくなっていくことを願っています。

（むぎピース　山下　克予）

ボウリング＆イオンで食事レク



6月22日（月）、ボウリングとイオンへいってきました！

誰かがストライクをとるとみんなでハイタッチをして盛り上がり、ボウリングを楽しみました。

その後、和歌山イオンのフードコートで昼食。昼食後の自由行動では、ガチャガチャが大人気でした。

仲間みんなでの時間や、個人での時間の両方を楽しめる充実した一日となりました。

（はぐるま共同作業所 和の杜　森　まり）

京都国際マンガミュージアムへ行ってきました！

7月3日（金）京都国際マンガミュージアムへ行きました。

行きのバスではマンガクイズで大盛り上がり。なかなかディープなマンガ知識を披露され、仲間の新たな一面を発見できました。

おたべや京ばあむの店にも立ち寄り、京都らしいお土産を買ったり、バウムクーヘンの工場見学も楽しみました。

マンガミュージアムでは館内を各々に見学し、紙芝居は語り部の方との掛け合いで盛り上がり景品をゲットした仲間も！また、敷地内にある前田珈琲で、壁に描かれた漫画家さんのイラストやサインを見ながら珈琲タイムを楽しんでと、充実した一日になりました。



（麦の郷和歌山生活支援センター　粂山　加奈子）

児童福祉週間

5月13日（水）に和歌山県障害福祉課の方が3名来園されて、絵本や紙芝居をいただきました。児童福祉向上の一環として、毎年こどもの日前後の児童福祉週間に合わせて来園していただいています。代表して年長児に絵本の受け取りと、お礼に花束贈呈をお願いしました。いただいた絵本を子どもたちに紹介すると、知っている絵本もあり、声を出して喜ぶ子どもや、嬉しい表情を見せる姿がありました。「早く読みたい！」とリクエストする子どもも。みんなで大事に読んでいきたいと思います。



（第二こじか園　中谷　愛）

近くて遠い大阪を満喫！



9月23日（水）・24日（木）の2日間、はぐるまの仲間たちと職員が全員で、きょうされん第49回全国大会in大阪「えがおのまつり」に参加してきました。仲間たちの日頃の慰安と職員の研修を兼ねての電車での一泊旅行を楽しんできました。

全国各地の作業所からボランティアさんも含めて3000名以上が集まり、「ええやん、自分らしくいこや、つなごう笑顔、命、そして平和」をテーマに、開会全体会、特別講演、利用者フォーラム、仲間の観光、分科会などの企画が催されました。

仲間たちは1日目、全体会後3つの利用者フォーラムに分かれて参加し、歌や踊りの企画を楽しみ、大阪モノづくりの体験企画では、たこ焼きやたこ焼きサンプル作りを楽しみました。夜は大阪梅田の高級ホテルに泊まり、イタリアンレストランでコース料理を堪能しました。2日目は、4つの仲間の観光コースに分かれ、テレビでよく観る建物や場所をめぐり、大阪の街を満喫できました。仲間から「他府県の仲間と気軽に交流できたのでよかった！」と感想をもらいました。月曜日からまた仕事がんばるぞ～！



（はぐるま共同作業所　鈴木　栄作）

理事長コラム　日々是雑感⑥　多田君のこと③

自閉症障害をもつ重度知的障害の多田君と、小川に入り、うんちの世話をしながらも、水遊びを始めた先輩のぷーさんに、「ぷーさん、どうしてそんなことができるのですか？」と尋ねた私に、ぷーさんは、「好きだからかな」と答え、楽しそうに水遊びを始めます。

私は、大学に入学し、入部したサークルが“障害者問題研究会”であり、もっと研究できると強く思っていました。しかも、私は、そのなかで医療パートというグループのなかにいました。私は、そこで、病院等に出向いて障害児者のことが勉強できるのではとの思いをもっていたのです。ただ、その思いを満たされないまま、夏休みのキャンプ合宿を迎えていたのです。

多田君のお尻を洗いながら、「気持ちいいね」とキャッキャとはしゃいでいるぷーさんが「こうへい（私の大学はたいていニックネームで呼ばれていたのですが、私は、本名がニックネームでした）、サークルあんまり好き違うようになってきてない？」と、とつぜん私の心を見抜いたような言葉を私にかけてきたのです。さらに、ぷーさんは「僕は、多田君やお母さん達にいっぱい教えられてきたな。なんか、研究会っていう名前に惹かれて入ってくる子は、夏休み以降でやめてしまうんだよね。こうへいも入って水遊びしようよ。楽しいよ。多田君のおなか触ったら笑っているのわかるよ」と続けたのです。

ぷーさんの言葉をすぐに納得できませんでした。ただ、その夜、お母さんやお父さんとのキャンプファイアーで、ぷーさんの言葉が少し理解できたのです。キャンプが終わってからのサークルの反省会で「やめようと思っていたのですが、もうちょっとやってみます」と発言し、それ以降、仲間たちから学びながら成長する日々を目指し、今日もその暮らしを続けています。

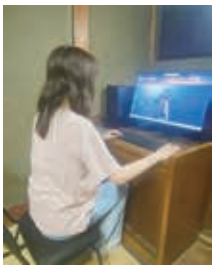
（理事長　山本　耕平）

日々是雑感とは、私の人生で感じたことや思ったこと、四方山話などを徒然にお話ししようと思い、このテーマにしています。

助成金ありがとうございます

自分のペースで働くためのデザインルームが整いました





読売光と愛の事業団さまより、山﨑邸内のデザインルームの環境整備のためエアコンとデザイン用パソコン購入の助成を頂きました。

創カフェでの接客業務等をハードルが高いと考えるひきこもり経験者もおり、より自由度が高く自らのペースで働くことができる場が必要です。そこでこの度、読売光と愛の事業団さまから助成をして頂き、山﨑邸デザインルームの整備（エアコンの設置と専用パソコンの設置）を行いました。ひきこもり経験者の中には、デザインや絵画、イラスト、写真等を学び、独創的かつクオリティーの高い創作をしている人も少なくありません。

自らの能力や才能を商品（Tシャツやトートバッグ、手ぬぐい）という「ひとつの形」にすることで、働く意味や生きる（活きる）意味を見出す活動が増えたことは本当にありがたく思います。

読売光と愛の事業団さま、助成を頂きありがとうございます。

（meglück 出張所 創カフェ　野中　康寛）

新しい機械がやってきました



この度、赤い羽根共同募金の助成をいただき、製パン部に新しいドゥコンディショナー（パン生地の発酵・保冷を自動管理する機械）を導入いたしました。以前は機器の故障で作業に支障が出ていましたが、再び活気ある日常が戻っています。仲間たちも「静かで温度管理が正確だ！」「焼き上がりがふっくらした！」と大喜びです。最新の液晶画面やライトで明るく照らされる庫内など、新しい機能に目を輝かせながら丁寧に使ってはお手入れに励んでいます。

赤い羽根共同募金様、温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

（はぐるま共同作業所　廣瀬　智士）

むきのひと



第二こじか園
中本　こころ

私は、発達に特性のある子どもたちが毎日通園する児童発達支援センターで働いています。子どもたちの「好き」を大切にし、保育者が一緒に遊ぶ中で、集団の中で苦手なことも「やってみたい」という気持ちを引き出し、主体的に活動に参加する姿を目指しています。

子どもたちの小さな「できた」を、職員や保護者と一緒に喜べることは、私にとって大きなやりがいです。新しいことに挑戦する姿や、これまで難しかったことにチャレンジする姿を見ると、その成長に関われたことを嬉しく感じます。

また、子どもたちを支えるためには、職員自身が安心して働ける環境も大切だと考えています。職員一人ひとりが「やらされている」のではなく、自分の力を発揮し、仕事にやりがいを感じられる職場にしたい。そして、職員同士が支え合い、子どもたちの成長を一緒に喜べる、そんな職場をつくっていきたいと思っています。

麦の郷公式
Instagram



年賀状印刷
承ります
麦の郷印刷
TEL・073・464・3707
FAX・073・464・3708

